

Window(窓)の向こうに何が見える

総合情報処理センター長

蘆田 昇

パソコンの OS (オペレーティングシステム) の一つである Windows 95 (95) が世に出てから 12 年が過ぎた。95 以前に Windows 3.0, 3.1 などがあったが、これらは MS-DOS の元で動くアプリケーションであったから OS ではない。Windows 3.0 (3.1) は、OS の MS-DOS が動作している状態で、コマンドまたはバッチファイルの実行で起動させるものだった。使いたくなければ起動させなければよかった。

95 が発売されるや、販売店の前では深夜から長蛇の列ができたというような報道を憶えている。自分自身、95 搭載のパソコンに触れたときはその斬新性と画期性に眼を奪われ、同時に Macintosh の OS と類似していると感じたことが今は懐かしい。Windows OS は、95 の後、98, 2000, Me, XP と続き、昨年には Vista が登場した。

この 12 年、Windows OS は進化し続けているが、一方で、高価なハードウェア資源を求める食欲さも増長している。OS がバージョンアップするごとに、それまでのメモリ容量、ハードディスク容量、CPU の性能不足を実感させられる。実際、OS のバージョンアップをしたためにパソコンの動作が遅くなるということが起こってしまう。

他の先生方に先駆けてとは言わないが、比較的早い時期に Vista 搭載のパソコンを使っている。自分が進歩発展を遂げていないものだから、Vista 搭載のパソコンを使っている、何も新しい機能を使いこなせてない。XP を使っていた当時と同じ使い方でありあまり不自由を感じていない。そんな不自由を感じないのだったら、Windows OS にもハードウェア資源の性能や容量を求めない、基本機能だけを搭載した、簡便な操作が売りの軽量のバージョンが発売されないものかと考えてしまう。そんな OS がお年寄り向きだったら好評だろう。

ケータイ電話は既にお年寄り向けのものが商品化されている。ケータイはお年寄りに親切なのだ。そのお年寄り向けのケータイがパソコンと同等の機能を有するなら、それはポケットに入るモバイルパソコンになり、誰でもが簡単に操作できるパソコンになるだろう。

話は変わるが、冒頭にあった MS-DOS はコマンド・ベースの OS だった。パソコンの操作は、多くのコマンドを使いこなすアナログ的な要素があり、パソコンとの対話性が強く感じられた。ウィンドウの操作、メニューの操作、アプリケーションの利用などマウスでやっているとは簡単だが、パソコンの中で何が実行されているのか分からないし、対話性もコマンド操作ほど強く感じることはない。

教員室の窓 (Window) を通して見える日野山は、向こうまで今冬一番の雪景色が広がっている。Windows Vista を通して見える向こうには何が広がり、何が見えるのだろう。Vista の向こうにある 12 年後にはどんな OS が登場しているのだろう。

こんなことを考えながら窓越しに春の訪れを待っている。